

## 枝豆の種植えをする土は めるへんの森幼稚園（宮城県仙台市）

[4歳児]

【毎年行っている野菜等の栽培】今年、4歳児では枝豆を育てる。

**事例1** 芽が出やすくなるよう、水でふやかした枝豆の種をみんなで見る 子ども=子 保育者=保

子：「おっきくなってきたね！」

子：「お水飲んでるんだよ！」

子：「種って土に植えるんだよ!!」(気付き)

今までの経験から、ずっと水に入れたままではなく、土に植えた方がいいという意見がでる。

<その後の集まりで話題にする>

保：そろそろ枝豆を土に入れた方がいいって言ってる子がいたんだけど、どうしようか？

子：「じゃあ土に入れようよ！」

保：どんな土がいいかな？

**予想** どんな土に植えるか考える

子どもの予想①  
**色の違い** { ☆黒いところがいいと思う  
☆砂場には何も生えてないから、白砂じゃ芽が出ないよ  
☆畑の土は黒いもんね

子どもの予想②  
**場所の違い** { ☆風の子公園にも木とか草がいっぱいあるから、  
きっと枝豆を作れるんじゃない？

→ 「できるよ！」  
「できないよ！」  
予想②に対して…

**きっかけ**

A児：じゃあ、風の子公園の土に植えてみたらいいじゃん!!

**事例2** どんな土に植えるか考えながら、公園の土を集める

A児の言葉をきっかけに、近隣の風の子公園へ1人1本ずつシャベルを持って土集めに行く。

グループごとに「芽が出そう」と思う土を相談して集める。

子：「黒土がきつといいよ！」(予想)

子：「葉っぱも黒いのはいいかなあ??」(疑問)

子：「もっと掘って!!掘ったら中から黒土が出てくるよ!!」(発見)

子：「畑の土より、風の子の土の方がフワフワしてるよ！」(気付き)

子：「本当だ!ちょっとフワフワ、サラサラだあ！」(驚き)

子：「何でだろう!？」(疑問)



### <分析>

風の子公園にはよく行っていたが、これまでは子どもたちの目は虫や植物に向いていて、「土」はあまり意識されていなかった。ところが今回実際に風の子公園の土に触れたことで、土の色や感触などリアルな気付き・発見、思わず表現したくなるような驚き・疑問があり、夢中になって土を集める姿があった。

このように興味をもったことに対しては、進んで取り組むが、疑問をもってもその疑問に対して知ろうとする姿はまだ見られない。

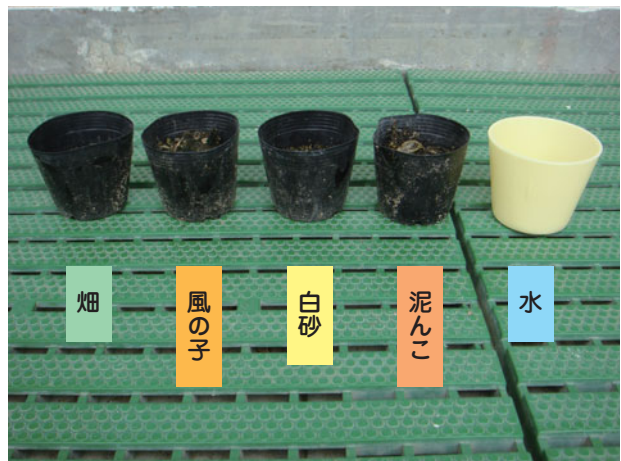
### 事例3 どれから一番早く芽が出る？

土を集める話し合いでは、風の子公園の土がよいと考えたが、実際に土に触れてみたことで、いろいろな考えが出る。

子：「水で種があんなに大きくなったんだから、土じゃなくて、水の方がいいと思う」

子：「黒土がいいってことは、泥んこだって黒いからいいよね」

子：「風の子の土がサラサラなら、白砂もいいかも」  
子どもたちの予想が広がり、土や水など5種類のものでも試すことになる。どれから一番早く芽がでるか実験を始める。



<枝豆の種を植えてから4日後>

風の子公園の土からいち早く芽が出る。

子：「あっ！風の子の土から芽が出てる～」（発見）

子：「やっぱり、風の子の土は栄養いっぱいなんだ！  
だってあんなに草とか木とか生えてるもんね！」（発見）

子：「やっぱり黒土がいいんだね」（発見）

子：「今日は枝豆の誕生日だね！」自然に『Happy Birthday』の大合唱をする。



### <分析>

芽が出たことや、実際に実験して発見したことの喜びがとても大きかったようだ。そのために、枝豆の芽を見つけた時に自然に誕生を喜ぶ歌が出たと思われる。

また、自分たちが予想していた土から一番初めに芽を出したことは印象的で、後日、他の種を植える機会があった際にも、子どもたちは真っ先に「風の子の土に植えるのがいい!!」と言っていた。

### 考察

子どもたちは3歳の時の経験や、5歳児の行っている栽培の様子を見て、種や苗は畑の土に植えることを知っている。その一方で頻りに足を運んでいる風の子公園にも花や草がたくさん生えていることに目を向け、その土でも栽培ができるのではないかと考えた。このように自分たちなりの予想をたてたり、推測したりして、確かめようとする気持ちがうかがえた。また、畑の土や風の子公園の土以外にも子どもが自分でやってみたいと思ったものを実験に加えることで、**知りたい気持ちや自ら考えたことを調べようとする気持ちが少しずつ膨らんできた**と思われる。

実際に土に触れることによって新しい発見や気付き、疑問を繰り返していき、その中で子どもたちの土に対する興味が深まっていった。自分で考えたからこそ、実験の結果を目の当たりにして、発見への喜びがとても大きかったものと考えられる。また、保育者が子どもの気付きに目を向け、一緒に実行してみたり、全体に伝えたりすることで、他児も興味をもち楽しみにすることができていた。

よって、**子どもが自分自身で様々なことを感じる中で、土に対する興味が深まり、発見したことに対する喜びを感じることができていく**とわかった。

### ポイント

栽培活動を楽しみにしている子どもたちへの保育者の言葉「どんな土がいいかな？」により、自分たちが土から考えるという主体的な栽培活動になりました。経験を手がかりに「枝豆を育てるのにいい土」を4歳児なりに考え「いろいろな土で育てて比べる」という意欲的な活動に展開し、発芽を見つけた時の喜びは今まで以上の感動体験になりました。**近隣の公園や砂場、畑などが、子どもたちが考えを巡らしたりイメージしたりできる身近な場であったことから、豊かな体験を重ねる環境の大切さがわかります。**